

森の保全と活用語る

第8回苫東朝飯会開く



第8回苫東朝飯会(代表世話人、三上信夫苫東常勤監査役)が24日、ラベンチハウス苫東(柏原)で開かれた。NPO法人苫東環境コモンズ(原口

苫東環境コモンズの設立の経緯について語る草刈氏

佳記代表理事)事務局で、北海道開発協会開発調査総合研究所の草刈健所長代理がNPOの活動と苫東地域の自然について講

演した。

草刈氏は株式会社苫東の前身、旧苫小牧東部開発時代に緑地担当者として森の保全に関わった。

「旧苫東開発の清算後に設立した」新会社には緑地の専門家を抱える余裕がなかった。倒れたままの木もあり、何とかしたかった」と振り返り、当時から抱えていた思いが昨年1月のNPO設立につながったと話した。

苫東環境コモンズの活動も紹介。産業と自然の共存の観点からボランティアが育林活動を続けているほか、「うつ病患者の森林療法にも苫東地域の森が活用されている」と話した。